

相模原市長、県知事に意見書提出 総括的事項9項目、個別事項92項目にわたる内容

2月18日、相模原市は加山市長名で「中央新幹線環境影響評価準備書に対する市長意見」を県知事宛に提出しました。

内容は総括的事項9項目、個別事項92項目を含み、説明文を含め全23ページにわたるものです。

個別事項の内容としては、(1)大気環境について27件、(2)水環境について15件、(3)土壌に関する環境その他について20件、(4)動植物生態系について8件、(5)景観について8件、(6)人と自然のふれあいの活動の場について3件、(7)廃棄物等について8件、(8)温室効果ガスについて3件となっています。また予測・評価の再検討が必要な種として24種類の動植物があげられています。

県の審査会でも問題にされた、何事にも「影響は小さい」とするJR東海のずさんな環境影響評価の内容を指摘するものとなっています。

本文は市のホームページ内、下記アドレスより入手出来ます。

<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/koho/houdo/028015.html>

青根、「沢水枯渇・痛恨の碑」に思う

青根緑の休暇村キャンプ場入口に建つこの碑を最初に見たのは、もう8年位前でしょうか。何気なく見たこの碑の意味を、今深刻に受け止めています。リニアの工事で、水枯れの心配が現実のものとなってきたからです。



青根、「沢水枯渇・痛恨の碑」

宮ヶ瀬ダム建設時、ダムに水を十分にためるため道志川から水を引く道志導水路がつけられました。

このトンネル工事で沢水が枯れ、悲しむ地元住民によりこの碑はたてられました。碑には「・・青根地域の多くの沢水は枯渇し、祖先から守り伝えて来た清水は姿を消した。国家公共の大義の為とは言え痛恨の極みである。よってここに碑を建立してその経緯を後世に残さんとするものである。平成14年3月吉日 青根地区宮ヶ瀬ダム導水路対策委員会」とあります。

この悲痛な声をぜひ知ってほしい。道志導水路は長さ8キロ、リニアに比べたら短い距離でおきたのです。

(K・T記)

公開質問状の回答について市と話しあいを持つ

- 環境影響評価準備書の不十分な内容には市としても意見を提出 -

リニア新幹線を考える相模原連絡会が、昨年末相模原市へ公開質問状を提出、その回答を受け取った後、2月13日に市と話し合いがもたれました。

市にリニアを担当する専門部門はなく、広域交流拠点推進課が窓口になり、必要に応じて関連部門へ回しているとのこと。

相模原市長から県知事への意見書提出は環境政策課が担当。その内容は基本的に市の職員が担当するが、わからない点は学識経験者に意見を聞いている。JR東海の評価書には橋本駅などの正確な場所が記載されておらず、「情報がきちんと出ないと市民の不安が増すという論点で書こうと思っている。」「地下水の問題で住民に会って意見を聞いたりしている。菅井の方とも会った。地域の代表から要請があれば生活の問題には応じたい。」と市側は語った。

また消防の方は、すでに7都県の消防担当が総務省のもとで会合を持っているとのこと。相模原連絡会の質問・意見に対して市側は、意見は承りますが県知事への意見書に反映するかどうかわからないと、誠実さに欠けるものでした。1時間15分という短い時間では、十分に私たちの意見を述べられず、市民の声をもっと聞いて欲しいと再度訴えて終わりました。(K・T記)

7都県住民代表が国会院内集会

リニア新幹線の環境破壊に各地から不安の声が



「リニア新幹線沿線住民ネットワーク」主催の院内集会が2月26日に行われ、愛知、岐阜、長野、静岡、山梨、神奈川、東京の7都県から約80人の市民が集まり、国土交通省、環境省らの担当者と意見交換を行いました。

JR東海は環境影響評価準備書の中では、どの項目でも「環境に対する影響は小さい」などとして、各地の市民が地下水の枯渇や大井川の水量減少など多くの不安の声をあげているにもかかわらず、国土交通大臣の認可を受けて今年中にも強引に工事に着手しようとしています。

発行者： 浅賀きみ江 相模原市緑区東橋本2-6-2 (TEL:090-4378-9257)

編集責任： 中野渡 旬 相模原市緑区東橋本3-19-8-309 (TEL, FAX:042-712-7077)

mail:MHA01005@nifty.com

リニア新幹線を考える相模原連絡会の活動は市民からの募金で維持しています。
ぜひご協力ください。

郵便振替口座：00240-7-71305 口座名：リニア新幹線を考える相模原連絡会